

# 作図と読図で深める地理学習の試み —地図を利用した授業実践—

〇〇〇立〇〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇 (地理)

## 1 はじめに

2007年11月7日に公表された中央教育審議会の「教育課程部会における審議のまとめ」によると、社会科、地理歴史科、公民科の課題として「児童生徒の学習状況については、基礎的・基本的な知識、概念が十分に身につけていない」ことが挙げられている。

特に地理の分野では程度の大小こそあれ、多くの学校で生徒の基本的な知識が不足していることが指摘されている。地理の基本的知識の不足は、同じ地歴科の日本史、世界史にも大きな影響を与えることは明白であり、実際の日本史、世界史の授業の際にご苦労をされている先生方も多いのではないかと思う。私自身も大変苦労した経験があり、「何とかして生徒に地理の基本的知識を定着させることができないだろうか」と考えたことが、今回の研究のスタートであった。

## 2 主題の設定

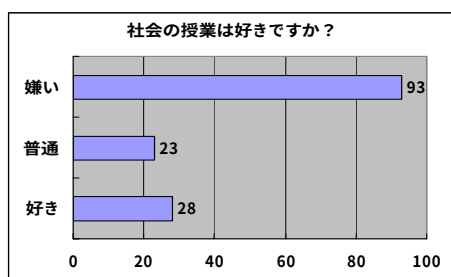
### (1) 実践環境

本年度の4月に天羽高校から安房高校に転勤となった。そのため、本実践は天羽高校と安房高校にまたがった実践ということになる。(天羽高校では1年生の地理A、安房高校では3年生の選択地理Bでそれぞれ実践を行った。)安房高校と天羽高校を比較すると、生徒の理解力、学習に取り組む姿勢に差があり、当初に天羽高校で立てた計画をそのまま実践するというわけにはいかない。しかし、天羽高校での実践を生かせる部分もある。どこを生かして、どこを発展させるか、2年目はこうした悩みを抱えながらのスタートであった。

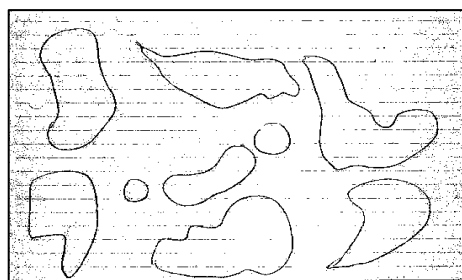
### (2) アンケートとメンタルマップから見た生徒の概況

天羽高校においても、安房高校においても4月の最初の授業でアンケートを行った。また、同時にメンタルマップを描かせた。その結果は以下の通りである。

天羽高校1年生(144名)



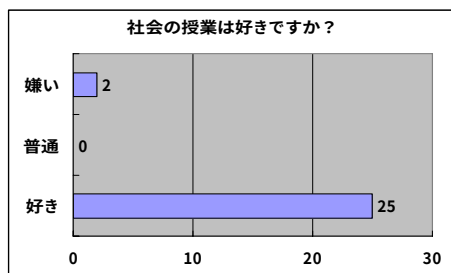
(表1) アンケート結果



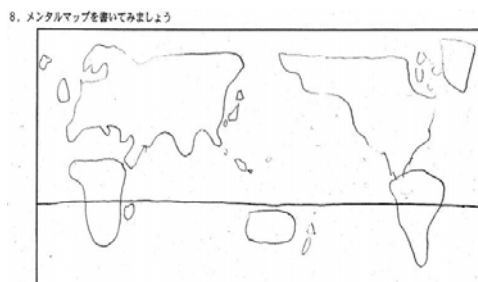
(図1) 生徒が描いたメンタルマップ

社会科が嫌いという生徒が全体の65%を占める。図1からもわかるとおりメンタルマップについてはほとんどの生徒が描けない。世界地図で日本の位置がわからない生徒がクラスの半数以上にのぼる。都道府県についてはほとんどの者が4～5県程度しか答えられず、中には千葉県の位置すらわからない者もある。

# 安房高校3年地理選択者27名



(表2) アンケート結果



(図2) 生徒が描いたメンタルマップ

地理の授業を選択するだけあり、社会の授業が好きな生徒が大半を占めている。メンタルマップについても、ほとんどの生徒が(図2)のように描けている。

## (3) 研究目標

前述の概況からもわかる通り今回の研究は、地理の基礎的、基本的な知識が不足しており、その定着が求められる生徒(天羽高校の生徒)、ある程度基礎的知識が定着していることが考えられ、応用力が求められる生徒(安房高校の生徒)と幅広いレベルの生徒が対象となっている。そこで、今回目標としたのは「地図を利用して地理の理解を深めること」である。どのようなレベルの生徒であれ、地理学習において地図の利用は欠かすことができない。そして、その方法として考えたのが読図と作図である。地理Bの学習指導要領「3 内容の取り扱い」には「読図、作図を通して地理的な見方や考え方を養う」と示されている。ここでは略地図の描画や地図化といった作図と自らが作図した気候区分図、民族分布図等の主題図の読図を通して、地理の基礎的、基本的な知識の定着や応用力を育むことを目標とした。では何を目的とするべきか。当然それぞれのレベルで求めるべきものは変わってくる。そこで以下の通りに、目的を設定した。

天羽高校の生徒に求めるもの(目標)→基礎・基本の定着

略地図の描画(作図)を通して、世界の主立った国や海洋の位置を理解すること。また、略地図を発展させていく中で、その地図を見て(読図)地理の規則性、法則性を理解すること。

安房高校の生徒に求めるもの(目標)→応用力の育成

情報を地図化(作図)し、その地図を様々な角度から見て(読図)検証する力を養うこと。

## 3 研究実践Ⅰ－天羽高校における実践

### (1) 年間指導計画への位置づけ(平成19年度)

地理Aの年間指導計画は以下の通りである。

1年次 地理A(2単位)

| 学 期 | 指導内容                |
|-----|---------------------|
| 1学期 | 第1編 地理情報の活用と現代社会の特色 |
|     | 1章 球面上の世界と地図(実践①)   |
|     | 2章 グローバル化する現代世界     |
|     | 3章 多様化する世界の人々の活動    |

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 2 学期 | 第2編 世界の諸地域の地域性           |
|      | 1 章 世界の人々の生活を取りまく環境(実践②) |
|      | 2 章 世界の諸地域の生活文化と環境(実践③)  |
| 3 学期 | 3 章 近隣諸国の生活・文化と日本との関係    |

## (2) 授業実践①

### ア 実践の概要と目的

天羽高校の生徒は世界地図のイメージができていない。そうした生徒を相手に地理の授業を行っていく上で必要なことは、とにかく世界地図に慣れさせることであると考えた。そこで、段階を踏みながら略地図を描かせ(作図)、世界地図のイメージを掴ませることを目的とした。

### イ 学習活動

#### (ア) メンタルマップを描かせる(ステップ1)

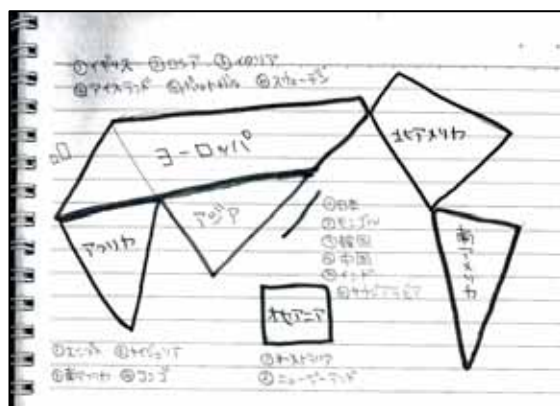
何も見ず、また、誰にも相談せずに、メンタルマップを描かせる。

#### (イ) 教科書、地図帳を見て世界地図を描かせる(ステップ2)

地図帳や教科書を見て、実際の世界地図を描かせる。

#### (ウ) 簡単な略地図を描かせる(ステップ3)

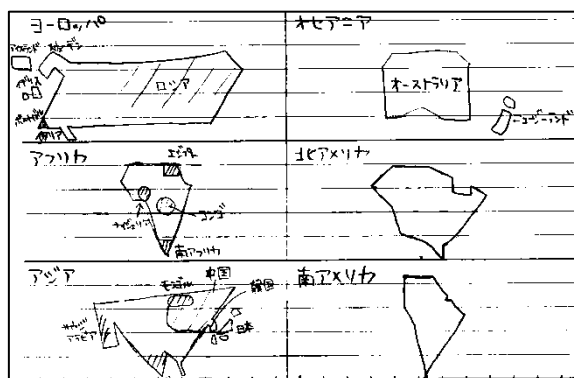
一筆描き出来るような簡単な略地図を黒板に示し、それをノートに写させる。(図3)



(図3) 生徒が描いたステップ3の地図

#### (エ) 略地図を6つの地域に分ける(ステップ4)

略地図を6つの地域(ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカ)の地域に分け、地図自体を分割する。



(図4) 略地図の分割、成形

(オ) それぞれの地域の主立った国を挙げさせる（ステップ5）

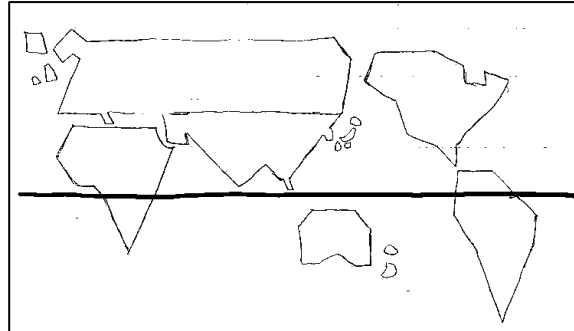
略地図に書き込ませるために、知っている国を生徒から挙げさせる。また、ポイントとなる国をいくつかこちらから提示する。

(カ) その国々を略地図に書き込みながら、地図を成形する（ステップ6）

(オ)で挙げた国々を略地図に書き込ませ、半島や島などを付け足し地図を成形する。（図5）

(キ) 成形した地図をもう一度組み合わせる（ステップ7）

成形されたものを組み合わせることで、より正確な世界地図の感覚を掴ませる。



（図5）ステップ7の地図

#### ウ 結果と検証

(キ) の組み合わせの作業では、難易度が高く、生徒達はなかなか組み合わせることができなかった。上下に分けたアジアとヨーロッパを左右に並べて描く者、アフリカとヨーロッパを並べて描く者が続出した。繰り返し机間指導を重ねた結果（図5）のような略地図を描ける生徒が徐々に増えてきた。世界地図のイメージが掴めてきたようであった。

### （3）授業実践②

#### ア 実践の概要と目的

生徒自身が描いた略地図を白地図として利用し、山脈や砂漠といった地形、海流を書き込ませる。さらには色分けをして気候区分図を作る。（作図）【概要】

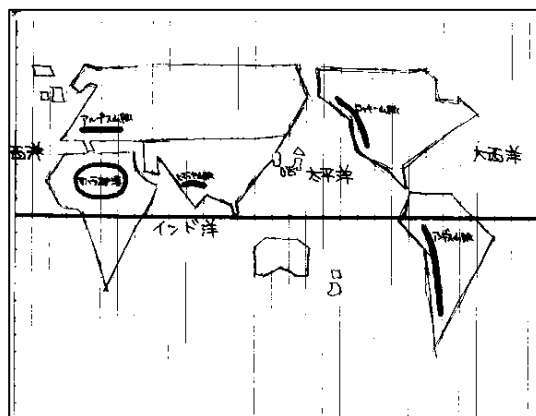
地形や海洋の位置関係、気候区分を理解するだけでなく、地理の規則性、法則性に気付かせる。

（読図）【目的】

#### イ 学習活動

（ア）地形の名称を書き込ませる

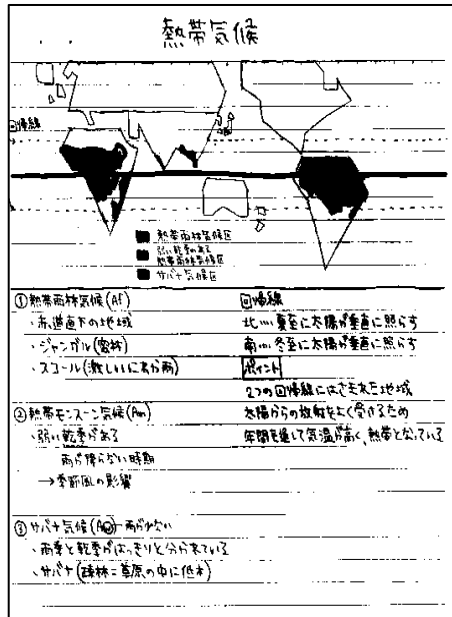
略地図を書かせ、そこに主な山脈、海洋の名称を書き込ませる。（図6）



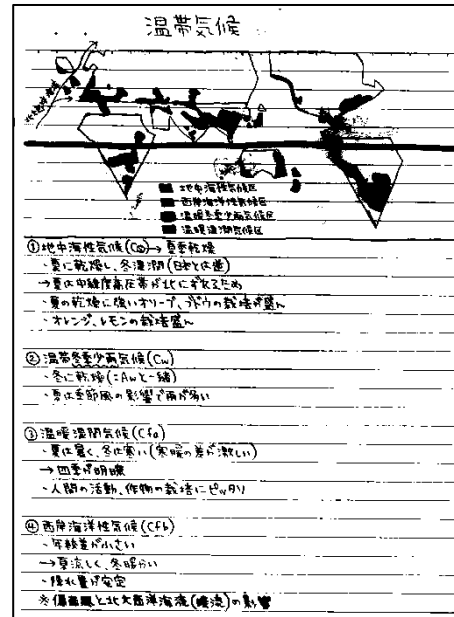
（図6）地形の書き込み

(イ) 気候帯ごとに色分けをする

ノートの上半分に略地図を書かせ、下半分に気候帯の特徴を書き込ませる。1つの気候帯で1ページを使い、略地図には気候帯の広がりを理解するために色を塗らせる。いわば生徒独自の気候帯ノートを作らせた。(図7)(図8)



(図7) 熱帯のノート

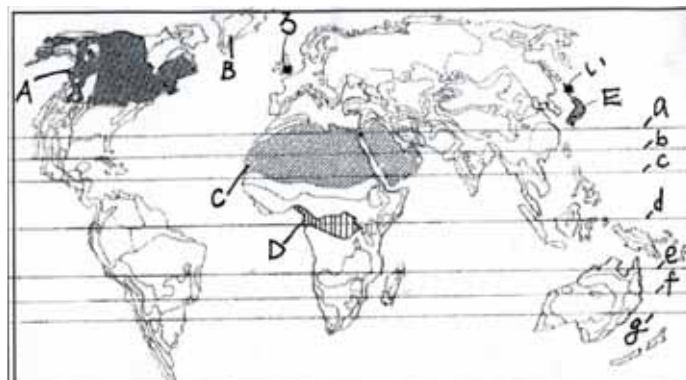


(図8) 温帯のノート

同時に回帰線、海流も書き込み、それを併せて見ることで、なぜその地域が暑いのか(寒いのか)、乾燥しているのか(湿潤なのか)等、論理的に気候を理解できるような工夫を加えた。

ウ 結果と検証

多くの生徒が(図7)(図8)で示したような気候帯ノートを作成することができた。その反面、このノートを有効に使うことができる生徒は非常に少なかった。例えば、ノートを見ればすぐにわかる質問をしても、見るページがわからず答えられない。熱帯についての質問をしているのに、寒帯のページを見ているような状態であった。これは機械的に地図帳、板書を写した生徒がほとんどで、内容まで理解できていないことが原因であると考えられる。気候帯に関する問題を出題した2学期の中間試験(白地図に色を塗り(図9)、そこが何気候であるのかを問う問題)であったが、3クラス95名で、正答率は2割程度であった。丁寧に気候帯ノートを作った者であっても間違えている状態であった。



(図9) 2学期中間試験問題

中間試験では、赤道を答えさせる問題においても、約1割の生徒が間違えていた。この知識の定着率の悪さの原因として考えられるのが、生徒の略地図に対する拒否反応である。

授業実践①、②では、とにかく生徒に略地図を描かせた。最初は物珍しさからかほとんどの生徒が取り組んでいた。しかし、気候区分図作成以降は「面倒くさい」、「わからない」と言いながら、取り組まなくなる生徒が徐々に増えていった。また、自分が担任をしているクラスでLHR時に授業に関するアンケートを採ったところ、クラスの3分の1の生徒から「地理が分らなくなってきた」、「地理がつまらない」という答えが返ってきた。「気候区分を理解するだけでなく地理の規則性、法則性に気付かせる」という本実践の目的は達せられていない状態ではあったが、このままでは「生徒の興味・関心を喚起する」ものではなく、「生徒の興味・関心を削ぐ」ものになる恐れがあったので、略地図の描画からの方向転換を考え始めた。

#### (4) 授業実践③

##### ア 実践の概要と目的

この計画を考えた際、予定では指導計画の実践③の部分で以下の様なことをやる予定であった。

既に学習したことを活用して、世界の諸地域を学習すると共に略地図を発展させる

##### ◆ 過去に描いた略地図の活用

ある地域を学ぶ際、その地域の略地図を描かせ、どの様な国があるのか、地図帳を見ながら書き込ませる。(略地図の成形も含む)また、以前の自分のノートを参考に、その地域の気候帯、文化を考えさせ、そこから、その地域を理解させる。

##### ◆ 細かい情報の書き込み

以前には書き込まなかった河川や地形などの細かい情報を書き込み、略地図を更に発展させていく。

本来であればここで略地図を発展させ、できれば生徒オリジナルの略地図が描けるようにしたいと考えていた。また、今までの積み重ねから、地理の規則性、法則性について理解させ、論理的に地図を理解できるようにしたいと考えていた。

しかし

- ・思った以上に生徒が略地図に対して拒否反応を示したこと
- ・この研究の目的は「略地図の完成」ではなく、「基礎・基本の定着」にあること

以上の点を考慮して、略地図から離れ、できるだけ易しく、生徒たちも取り組みやすいような地図ドリルを利用した。そしてドリルで世界の主な国の位置関係を理解させることを目的とした。

##### イ 学習活動

流れとしては、

- ① 問題プリントを配り、生徒たちに答えを記入させる。
- ② 解答のプリントを配り、答え合わせをさせる。
- ③ 白地図（世界地図）を配り、問題プリントが示している地域に色を塗らせる。

この3つの手順を1セットとして、単元の導入部分で用いた。また、知識の定着を図るために、そこで終わりにせず、授業中に確認を繰り返した。

##### ウ 結果と検証

略地図が生徒に地理アレルギーを植え付けてしまったらしく、この地図ドリルに対する興味・関心もかなり低かった。しかし机間指導を繰り返し行い、同時に掛地図、地図帳を活用し徹底して視覚に訴えた効果はあり、授業中に確認をすると、明らかに1学期、2学期に比べると多くの生徒が、世界地図を理解できるようになっていた。

#### 4 研究実践Ⅱ－安房高校における実践

##### (1) 年間指導計画への位置づけ（平成20年度）



今年度（前期）の地理Bの学習指導計画は以下の通りである。（3年選択授業）

|   | 学 習 内 容         | 月      | 学習のねらい                           | 備 考                                           |
|---|-----------------|--------|----------------------------------|-----------------------------------------------|
| 前 | ラテンアメリカの調査研究    | 4      | ラテンアメリカの地誌を中心に学習する               | 他地域との比較から、民族問題、経済社会問題を考える                     |
|   | ロシアの調査研究        | 5<br>6 | シベリア開発やシベリア東部の日本とのかかわりを中心に学習する   | シベリアの自然文化や日本との貿易やエネルギー資源開発の状況をまとめる            |
| 期 | 現代社会の諸課題（実践①～③） | 6      | 概況や抱えている課題を学ぶ                    | 現代社会が抱えている諸課題をいくつかのテーマに絞って学習し、今後の対策と展望について考える |
|   | 都市・居住問題         | 7      | ・先進国と発展途上国の都市問題                  |                                               |
|   | 環境・エネルギー問題      | 9      | の違いを理解する<br>・日本と世界の環境問題の現状と対策を学ぶ |                                               |

実践の対象としている「現代社会の諸課題」について、学習指導要領には「世界各地に生起している地球的課題に関する諸事象を地図化して追究し、その現状や動向をとらえさせるとともに、地図化することの有用性に気付かせ、それに関する技能を身に付けさせる」と示されている。このことを踏まえて、ここでは「情報を地図化し、その地図を色々な角度から見て検証する力を養うこと」を目的としている。その目的を達成するために、

地図を見て検証する（実践①）



検証する地図の枚数を増やす（実践②）



複数の地図から検証したことを基にして、他の地図を検証する（実践③）

このように回を重ねるごとにステップアップさせ、その力を向上させていこうと考えた。また同時に地図化の有用性にも気付かせることを目的とした。

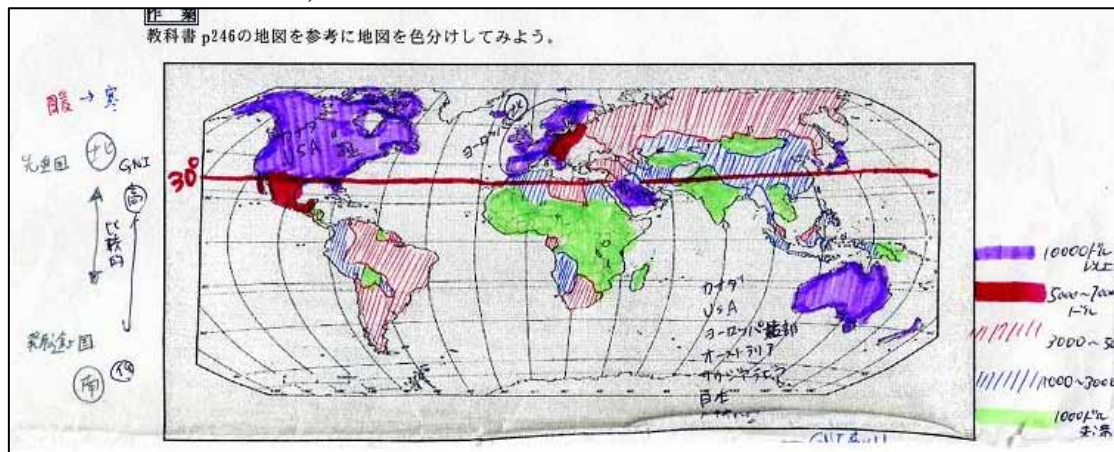
## （2）授業実践①

### ア 実践概要と目的

情報を地図化（作図）し、その地図から何を読み取る（読図）ことができるか考えさせる。ここでは南北問題を取り上げ、地図から南北問題を読み取ることを目的とした。

### イ 学習活動

各国のGNIの値を地図化し、そこから何を読み取ることができるかを考えさせた。



（図10）地図化された各国のGNIの値

## ウ 結果と検証

ここでは、ただ単純にGNIの高い国と低い国がどの様に分布しているのか、その様子を地図(図10)から読み取る事に主眼をおいた。そのため「この地図からどのようなことがわかりますか」の問いに対しほとんどの生徒が

- ・ GNIの高い国は赤道の北側(厳密にいうと北緯30度よりも北側)に位置している
- ・ GNIの低い国はアフリカに集中している

という答えを出すことができた。

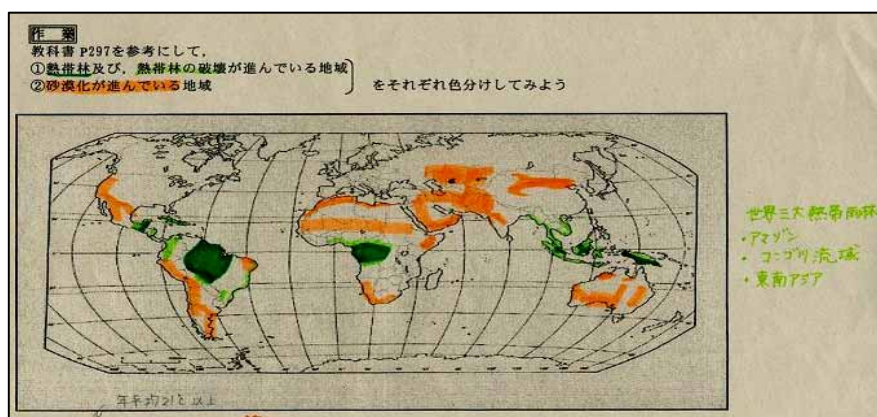
## (3) 授業実践②

### ア 実践の概要と目的

実践①と同様に情報を地図化(作図)し、その地図から「何を読み取ることができるのか」を地理の規則性、法則性を踏まえて考えさせる(読図)。ここでは、砂漠化について取り上げ、併せて、栄養不足、人口の偏りについて示された合計3枚の地図をみて、総合的に検証すること(読図)を目的とした。

### イ 学習活動

教科書を参考にしながら、熱帯林の減少が進んでいる地域と砂漠化が進んでいる地域を着色させた。(活動①)

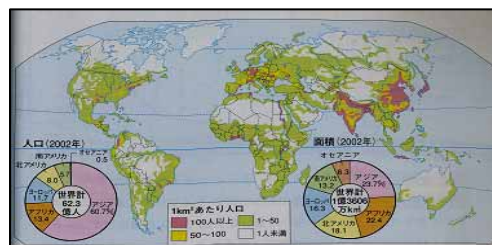


(図11) 地図化された熱帯林の減少と砂漠化の進行

ここでは、砂漠化の影響が大きい、食糧の問題と人口の問題を取り上げた。教科書に載っている、栄養不足の地域を地図化した地図(図12)、人口の偏りの問題を地図化した地図(図13)を見せ、砂漠化が栄養不足の問題、人口の偏りの問題に与える影響について考えさせた。(活動②)



(図12) 栄養不足のようす



(図13) 人口の偏り

### 問題

教科書 P269, P282の地図を見て、人口、食糧問題の側面から、砂漠化の影響を考えよう

アフリカ地方は、色々な面において貧しく、砂漠化が進み、栄養も不足している。人口もとても多くなっている。

(例) 生徒の解答



## ウ 結果と検証

熱帯林の減少については、原因と影響について簡単に触れる程度に止めた。

砂漠化の進行についてはまず、砂漠が多い地域はどこかその理由も含めて考えさせた。生徒は「雨が少ないから」「乾燥しているから」といった砂漠が多い理由について答えを出すことはできた。しかし、砂漠が多い地域が中緯度地方で、それが中緯度高圧帯の影響であることまでたどり着く生徒はほとんど見られなかった。その後、こちらが緯度について等幾つかのヒントを与えるとほとんどの生徒がこの答えを導き出すことができた。

また、3枚の地図を見て「人口、食糧問題の側面から、砂漠化の影響を考えよう」という問いに対して最初はほとんどの生徒が（例）に見られるような、答え（総合的に検証することができていない答え）しか出すことができなかった。しかしこちらから、

「砂漠化が進むと、人々が住める地域はどうなるだろう？」

「砂漠化が進むと農耕が可能な地域はどうなってしまうであろうか？」

といったヒントを出すと、多くの生徒が

「砂漠化の影響で、人々が住める地域が減少し、人口の偏りを生む。また農耕可能な地域も減少することで食糧不足になる可能性がある」

という答えを出すことができるようになった。

この実践において生徒達は、ちょっとしたヒントを与えることで、答えを導き出すことができた。それだけ安房高校の生徒には基礎的、基本的な知識が身につけていることが窺えた。

## (4) 授業実践③

### ア 実践の概要と目的

分布図を作成し（作図）複数の地図を見て、それを総合的に検証（読図）し、そこから見えてくる問題点を読み取る。さらに同様の問題が起こりうる地域を地図から読み取ること（予測すること）（読図）を目的とした。

### イ 学習活動

東ヨーロッパにおいて、現在民族問題を抱えている地域を地図上に示させ、どこで民族問題が起こっているのかを読み取らせた。

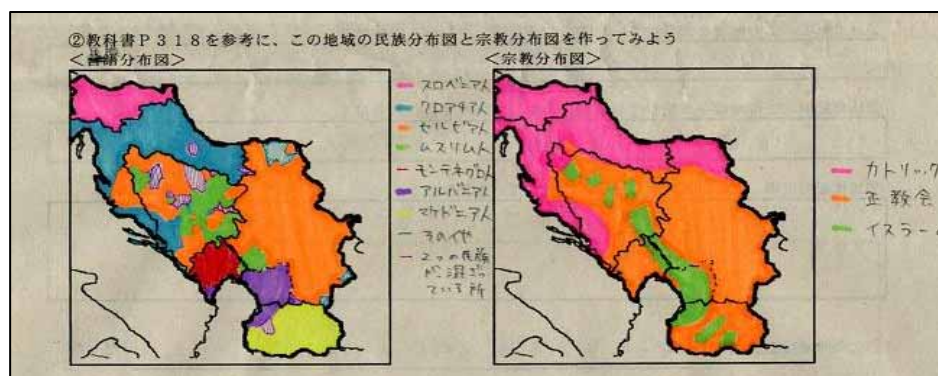
#### 活動①



(図14) 紛争の発生している地域

生徒に、紛争が集中しているのは旧ユーゴスラビアの地域であることを答えさせたあと、旧ユーゴスラビアの民族と宗教の分布について色分けをさせた。

## 活動②



(図15) 旧ユーゴの民族分布図(左)と宗教分布図(右)

ここから、「なぜ旧ユーゴの地域には紛争が起こるのか」を生徒たちに考えさせた。また、地図帳の民族分布図、宗教分布図を参考に「今後紛争が起こりうる地域」を考えさせた。

### ウ 結果と検証

「なぜ旧ユーゴの地域では紛争が起こるのか」という問いに対し、生徒から出てきた答えは

- ・民族が多い
- ・宗教が多い
- ・民族と宗教の分布がバラバラ
- ・国境に関係なく民族が(宗教が)分布している
- ・イスラム教がとびとびに分布している
- ・複雑に入り組んでいる
- ・民族、宗教が集中している

というものであった。多くの生徒が民族分布図、もしくは宗教分布図のどちらかの地図一方から読み取れる情報を答えたのに対し、何名かの生徒が、2枚の地図を重ね合わせ「民族と宗教の分布が一致していない」という答えを出すことができた。その他の生徒についてもこちらから「2枚の地図を見るんだよ」といった簡単なヒントを出したことで、その答えを出すことができるようになった。ここでは実践②の成果が感じられた。

また、地図帳の民族分布図、宗教分布図を参考に、今後紛争が起こりうる地域について考察させたところ、生徒から出てきた答えは次の様なものであった。

- ・ポーランドの近くやドイツ付近は言語や宗教が違うので紛争が起こる可能性がある
- ・言語が入り交じっているベルギー、スペイン、キプロス、宗教が入り交じっているハンガリーとルーマニアの近辺は起こる可能性がある
- ・マケドニア、クロアチア

また当然のことであるが、「民族(宗教)が多い＝紛争が起こる」という単純な図式は成り立たない。アメリカやスイスのように、複数の民族が平和に共存している例もある。一方でキプロスのようにすでに紛争が起こっている地域もある。そういう意味で言えば、ここで生徒から出された答えは不十分な答えと言わざるを得ない。しかしここでは、「地図から読み取る」「地図から考える」という点に主眼を置いているため、敢えて生徒の答えに対してその様な評価は行わなかった。

## 5 実践の総括

### (1) 評価規準

#### ア 天羽高校の生徒に対する評価規準

|          |                                                                                                         |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業に取り組んでいる。</li> <li>・略地図を完成させようと努力している。</li> </ul>         |
| 技能・表現    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・段階に応じた略地図を作図している。</li> <li>・ポイントを押さえた分布図、主題図を作図している。</li> </ul> |

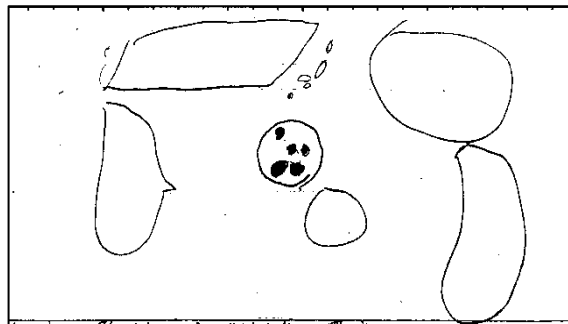
|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 思考・判断 | 地理の規則性、法則性を踏まえた上で、地理的な視点から地図を見ることができている。       |
| 知識・理解 | ・世界の主立った国や海洋の位置を把握している。<br>・地理の規則性、法則性を理解している。 |

#### イ 安房高校の生徒に対する評価規準

|          |                                                               |
|----------|---------------------------------------------------------------|
| 意欲・関心・態度 | 与えられた課題を意欲的に追究している。                                           |
| 技能・表現    | ・見やすく、ポイントを押さえた地図を作図している。<br>・地図化の有用性を理解し、その技能を身につけている。       |
| 思考・判断    | ・地理的な視点を踏まえた上で、多角的に地図を検証することができる。<br>・複数の地図を見て総合的に検証することができる。 |
| 知識・理解    | ・現代社会の諸課題について理解し、その知識を身につけている。                                |

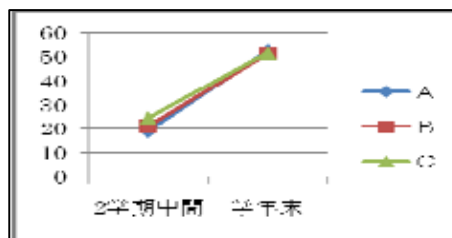
#### (2) 天羽高校における実践の総括

略地図と地図ドリルの併用、グループ学習の導入等、指導員の先生方の助言を頂き、19年度の反省を生かした20年度の実践計画を考えていたところ安房高校への転勤が決まった。その為、天羽高校の実践が中途半端に終わってしまった感否めない。しかし、緩やかではあるが天羽高校の生徒の変化を感じ取ることができた。例えば、下の地図(図16)は、東南アジアの場所を把握させるために、ノートに描かせた略地図である。



(図16) 実践後に描かれた世界地図

この略地図は、(図1)のメンタルマップを描いた生徒が3学期に描いたものである。これを成長と取るかどうかは判断が難しいところであるが、大陸の数、位置関係等、私自身は成長と評価したいと考えている。また、学年末テストにおいて、東南アジア及び南アジアの国名を答えさせる問題を出したのだが、今まで空欄で答えすら書こうとしなかった生徒を含め多くの生徒ができていた。(表3)は先に紹介した2学期中間試験と学年末試験の平均点の差である。全てが地図に関する問題ではないのが、この成績の向上は、地図の理解度が増したと無関係ではないと考えている。



(表3) 3クラスの平均点の変化

目標であった読図の部分「地理の規則性、法則性を理解すること」までは達成することはできなかったが、「世界の主立った国や海洋の位置を理解すること」に関してはある程度の手応えを感じることができた。基本的知識の定着の足がかり程度は掴めたように感じる。

### (3) 安房高校における実践の総括

3段階の授業実践を終えて、生徒にアンケートを実施した。

|                                    | A  | B   | C  | D  |
|------------------------------------|----|-----|----|----|
| 南北問題について理解することができましたか              | 5人 | 21人 | 1人 | 0人 |
| 地図から砂漠化の影響について考えることができましたか         | 5人 | 15人 | 6人 | 1人 |
| 地図から旧ユーゴの紛争の原因について考え、理解することができましたか | 9人 | 14人 | 4人 | 0人 |
| 地図から今後紛争が起こりうる地域について考えることができましたか   | 4人 | 18人 | 5人 | 0人 |
| 複数の地図を見て分析することができましたか              | 6人 | 17人 | 4人 | 0人 |
| 現代社会の諸課題について理解することができましたか          | 4人 | 18人 | 5人 | 0人 |

A 良くできた B できた C あまりできなかった D できなかった

地図化をするメリットを考えてみよう（原文まま）

- ・わかりやすい ・他の地域との比較がしやすい ・色鮮やかできれい
- ・単純にどこに何があるか一目でわかる ・国の位置も理解できる
- ・文章ではわからないことがわかる ・国同士の関係がわかる（民族や経済格差）
- ・文字ばかりで書かれていたら読まない様な情報も地図化することでその情報に興味を持つ

今回の実践を行った感想（原文まま）

- ・複数の地図を比較することで新しい発見ができた。
- ・文章からではわからない世界のどこで起きているのか、どの位の範囲で起きているのか良く理解することができた。また、違う種類の地図を比較したり、重ねて見ることで、時代に伴う土地の変化や言語と民族の分布の様子など、地図を用いることで細かい地域まで調べることができることがわかった。

アンケートの結果、すべての項目においておよそ7割以上の生徒がAもしくはBと答えているように、学習内容についての理解、地図を見て考えることについて何らかの手応えを感じたようである。また地図化のメリットについてのコメントからもわかるとおり、地図化の有用性に気付くこともできたようである。そして、目標であった「地図を様々な角度から見て検証する力を養うこと」について、私自身は3回の実践を通してその力が生徒達についてきていることを感じ取ることができた。しかし、生徒達の力がどの程度伸びたのか、そのことを客観的に示す資料を用意できなかったことは反省点である。

## 6 まとめ

地図の読図と作図を通して何とかして地理の理解を深めてもらいたいと思い、今回の実践を行った。しかし、転勤という個人的な事情もあり、天羽高校、安房高校の実践ともに中途半端に終わってしまった感は否めない。しかしそんな中でも、生徒の変化を感じ取ることができたことは大きな収穫であった。特に天羽高校の生徒が、世界地図についての理解を深めてきたところで転勤になってしまったことは残念でならない。

今回私が行った実践は、多くの先生方が既に行った、もしくは行われている方法であると思う。今後更に研鑽を深め、どの様なレベルの学校でも有効な地図の利用について考えていきたいと思う。

慣れない地理の研究に戸惑うことばかりであったが、地理の面白さ、奥深さも感じる事ができ、大変有意義な研究を行うことができた。このような機会を与えてくださり、なおかつ最後までご指導をしてくださった県教育委員会教育振興部の指導主事の先生方及び指導教員の先生方にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。